

まちの話題

7月25日[Fri]

2025東京デフリンピックキャラバンカー



▲“デフリンピック”を意味する手話のポーズで心をひとつに

2025東京デフリンピック啓発のため、全国を巡回するキャラバンカーが市役所にやってきました。デフリンピックとは、国際的な「きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック」で、東京大会は、11月15日(土)～26日(水)の12日間で21の競技種目が競われます。

一般社団法人佐賀県聴覚障害者協会の中村 稔理事長は「手話は私たちの命です」と聴覚障害をもつ人にとって手話がいかに大事なものであるか話されました。また、自転車競技日本代表の簗原由加利選手からもご挨拶を受けました。

横尾俊彦市長は「2025東京デフリンピックを通じ、多くの人が聴覚障害への理解を深め、ともに支えあう地域づくりにつながっていくとともに誰もがいきいきと活躍できる社会づくりの実現に向けて、多久市としても精一杯努力したい」と今後の意気込みを話しました。

7月28日[Mon]～31日[Thu]

大阪・関西万博「LOCAL JAPAN展」多久市の魅力を発信



▲おにぎりをととして多久市の魅力を伝える横尾俊彦市長(中央)

大阪府で行われている2025日本国際博覧会(大阪・関西万博)において、多久市が「LOCAL JAPAN展」に出展しました。この展覧会は、日本各地の魅力を発信するイベントで、万博会場のEXPOメッセ「WASSE」で7月28日(月)から31日(木)まで開催されました。多久市は、全国から集まった他の4市と合同で、おにぎりを通じて日本の魅力を伝える体験型イベント「日本各地の食と世界を“共創おにぎり”で結ぶ」に出展し、多久市産さがびよりと佐賀牛を使用した「佐賀牛しぐれ煮おにぎり」を販売するとともに、多久の魅力を世界にPRしました。

8月15日[Fri]～16日[Sat]

第77回 多久山笠 盛大に開催！



▲提灯山が勢いよく回され、大きな歓声が沸きました

多久の夏の風物詩「第77回多久山笠」(主催：多久山笠委員会)が、今年もJR多久駅前の通りで開催されました。

注目の提灯山組立では沿道からも「ヨイトサー、ヨイトサー」とかけ声があがり、会場全体が一つに。多久山笠委員会総取締の山本茂雄さんは「近年は市外にも祭りの認知度が上がってきました。若い人には多久の誇りとしてこの祭りを継承してほしいです」と期待を込めて話されました。

来場した家族は「子どもたちに伝統の行事を見せたくて毎年来ています。露店も楽しめて、いい思い出になりました」と笑顔。2日目のフィナーレには約1,000発の花火があがり、多久の夏を彩りました。

